

【第2部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
岡山 一宮	<p>nナッチ数列の隣接2項間の比の極限</p> <p>第0項を0、第1項を1として、それ以降の項は前2項の和で表される「フィボナッチ数列」を一般化し、第0項とそれ以前の項を0、第1項を1として、それ以降の項は前n項の和で表される「nナッチ数列」を考える。この数列において、第k項と第k+1項の比で$k \rightarrow \infty$の極限を調べた。結論としてこの極限は収束し、その収束値はnに依存したn次の特定の方程式のもつ解のうち、唯一の正の実数解であることを証明した。</p>
高松 農業	<p>エフカ・ド・カフェ ～シーズンⅧ～</p> <p>「自分たちで作ったケーキを自分たちのカフェで、お客様に直接提供し、味わってもらいたい。」という純粋な思いで、9年前に立ち上げられた地域開放型カフェ「エフカ・ド・カフェ」の活動記録である。昨年度と今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、カフェ空間での提供を断念するしかなかったが、「コロナだから出来ること」を合言葉に、テイクアウト商品の開発と提供、来年度以降の後輩への伝承に力を注いでいる。</p>
倉敷 天城	<p>刀の生産地を比較 ～備前とその他の地域～</p> <p>本研究では、備前刀が他の生産地に比べ、国宝、重要文化財で圧倒的な数量を誇っていることから、備前刀と他の産地の刀は何が違うのかを明らかにすることを目的とした。それらの刀の違いを明らかにするために、国指定文化財データベースから、指定品の刃長、反り、元幅の数値の調査を行った。その結果として、地域ごとに数値に大きな違いがあることが分かった。また、備前刀の特徴を明らかにすることができた。</p>
倉敷 鷺羽	<p>エシカルでつながる今と未来</p> <p>エシカルな社会の実現に向けて、地域で取り組まれている活動や自分たちにできる活動について発表する。そもそもエシカルとは何だろう。地元児島にある企業の株式会社ジャパングループ、明石被服興業株式会社取材し、紹介する。また、子ども食堂にボランティアに行き、地域の方々の思いを聞いた。誰もが住みやすい街づくり、みんなで街をハッピーにするために私達ができることは何かを考えたい。</p>
笠岡	<p>笠岡市の耕作放棄地の減少にむけて</p> <p>笠岡市の耕作放棄地の増加という課題を知り、その減少につながる仕組みを明らかにするために探究活動を行った。内容は、耕作放棄地を活用し農業を行っている農家の方へのインタビューや前述の農家の方が地域の人に向けて野菜を販売している直売所のイベントへの参加、その顧客へのアンケート調査などを行った。その結果、耕作放棄地の減少には、収入の安定や農業者と地域の人との関係性などが大切であることが分かった。</p>
笠岡 商業	<p>北木島観光ツアー ～ぐるっと一周北木の魅力～</p> <p>日本遺産に認定された北木島の石の文化・歴史には多くの魅力が詰まっている。しかし、島民の高齢化が進み、その魅力を伝承する若者がいない。その問題を解決するために高校生が観光ガイドを行い、北木石の魅力を発信し、後世に伝えようと考えた。このスライドは、昔ながらの映画館から北木石の採掘場などをスタンプラリー形式で表したもので、北木石のスポットを順番に歩きながら巡る観光コースのようにになっている。</p>

【第2部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
勝 山 (蒜山)	<p>持続発展可能な社会の実現のため、私たちにできること</p> <p>令和3年度に取り組んだ、学校設定科目「蒜山Ⅲ」での、「中庭班」及び「うおうお班」の活動を中心に、蒜山校地の目指す「持続発展可能な社会づくり」について報告する。それぞれのプロジェクトの、完成後の状況・課題、今後への導線について説明した後、さらに他校との「学びの共有」を目指して、3年間の取組で手にした「課題にアプローチする姿勢」について発表する。</p>
真 庭	<p>よすがプロジェクト ～シェアハウス作りで人の輪を広げる～</p> <p>真庭市落合地区出身の5名が、過疎地域の空き家問題、人生プランの多様化に着目し、地域の方とシェアハウス作りに挑戦した。これまで目に留まらなかったものや気にもならなかったことに気づかされ、SDGsについて考えるとともに、人という財産に触れ合っていくチャレンジ探究。失敗を重ねながらも、「地域の役に立ちたい」、「誰かを喜ばせたい」という想いを原動力に、シェアハウスお披露目会までの軌跡を発表する。</p>
複数校 合 同	<p>「被災地に学ぶ」 ～宮城の高校生との交流を通して私たちが伝えたいこと～</p> <p>普段災害の少ない岡山県にいと防災について考える機会があまりない。大災害も当事者でなければ次第に記憶が薄れる。しかし、災害はいつどこで起こるかわからない。私達はオンラインで宮城県の亘理高校の生徒と、宮城県の中浜小学校見学、アーカイブワークショップを行い多くのことを学んだ。そして、様々なことを考える多くの気づきがあった。私達が出来ることが「知ること」と「伝えること」そして、「自分事として考えること」だ。</p>

【第2部】発表内容（ポスターセッション）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
岡 山 一 宮	<p>岡山一宮高等学校 硬式野球部の取組について</p> <p>岡山一宮高校野球部は、選手中心に活動計画と内容を立案し、実行・振り返りを行う「PDCA サイクル」を意識した取組を行っている。部活動の活動時間の確保が難しくなる中で、いかに充実した取組を行い、成果を目指すかと考えた際に、選手の内発意識の向上が欠かせないと判断し、取組を開始した。その取組内容を発表した。</p>
高 松 農 業	<p>地域資源を活用した高品質卵生産と採卵鶏の経済的寿命延長に関する研究</p> <p>高品質の卵の生産とニワトリの産卵期間延長を目的として本研究に取り組んだ。チーズ製造の際の副産物であるホエーと胡粉製造の際の副産物の胡粉水を主原料としてニワトリ用の青汁を開発し、それを与えることで卵の品質への影響を検証した。また、産卵末期のニワトリに与えることで、産卵率の低下防止等への効果について検証した。</p>
倉 敷 天 城	<p>英語文法の効果的な学習方法 (The Best Method to Study English Grammar)</p> <p>グローバル化が進む現在、英語が不可欠である。しかし、中学英語でつまずき苦手とする人が多いと感じる。そこで、中学校英語科の教員が考える生徒の苦手分野についてと生徒自身が苦手と感じる分野について、それぞれアンケートを行った。その結果、どちらにも上位に分詞が挙げられたため、本研究では中学英語の分詞に焦点を当て、その克服方法を探った。調査の結果、物語の例文を使った説明が最も効果的であるという結論に至った。</p>
倉 敷 鷺 羽	<p>エシカルでつながる今と未来</p> <p>エシカルな社会の実現に向けて、地域で取り組まれている活動や自分たちにできる活動について発表する。そもそもエシカルとは何だろう。地元児島にある企業の株式会社ジャンプブルー、明石被服興業株式会社取材し、紹介する。また、子ども食堂にボランティアに行き、地域の方々の思いを聞いた。誰もが住みやすい街づくり、みんなで街をハッピーにするために私達ができることは何かを考えたい。</p>
笠 岡	<p>作ろう！世界に一つだけの防災メモ</p> <p>笠岡市役所危機管理課の職員の方の講話及び現地調査から、住民の防災意識が低く、ハザードマップを見ていないため、危険箇所を把握していないことや災害時どのような行動をとればよいかわかっていないことが明らかになった。そこで、住民が防災メモを作成することで、危険箇所の把握や災害時の適切な行動、さらに災害に対する備えなど、防災意識の向上に効果的ではないかと考えた。</p>
笠 岡 商 業	<p>北木島観光ツアー ～金風呂（かなふる）ぐるっとしょーや！！～</p> <p>日本遺産に認定された北木島の石の文化・歴史には多くの魅力が詰まっている。しかし、島民の高齢化が進み、その魅力を伝承する若者がいない。その問題を解決するために高校生が観光ガイドを行い、北木島の魅力を発信し、後世に伝えようと考えた。このポスターは、北木島の石の伝統と魅力を伝える観光コースを地図や紹介する写真を使って作成したものである。北木島の魅力を多くの人に知ってもらいたいと思っている。</p>

【第2部】発表内容（ポスターセッション）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
新見 A	<p>地域につながるバイオマス発電</p> <p>私達は、SDGsを通して我々の住む新見市でできることを考え、現在バイオマス発電に焦点をあてて探究を行っている。</p> <p>新見市では林業が盛んであり廃木が多いこと、新見市の人口が少ないことから、バイオマス発電所をさらに発展させてはどうかと考えている。人口が少ないことはデメリットではあるが、だからこそ再生可能エネルギーの供給量割合を高め、恩恵を住民に還元できると考えている。今後、探究をより深め新見市にこのことを訴えていきたい。</p>
新見 B	<p>「今あるもの」を生かしたスマートシティの創造 ～暮らしやすいまちであり続けるために～</p> <p>少子高齢化と人口減少が著しい山間部では、公共サービスやインフラの持続可能性が課題である。人口が減っても街の機能を維持し、より暮らしやすい街を実現させるにはどうすればよいただろうか。</p> <p>我々が辿りついた結論は「スマートシティ」の創造だ。SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に基づき、「今あるもの」を生かした新たなまちづくりを提案していく。医療・教育・交通・通信・観光など様々な視点から迫っていこうと思う。</p>
真 庭	<p>真庭市とゼロカーボン</p> <p>真庭市は令和2年に二酸化炭素排出実質ゼロ都市「ゼロカーボンシティまにわ」宣言をした。真庭市は、以前からバイオマス発電に積極的に取り組むなど環境に配慮した活動を行っており、どのように「ゼロカーボンシティまにわ」を目指しているのかを関係者にインタビューした。また、富士通 Japan 株式会社が行き組む「未来の語り場」にモデル校として参加し、将来のために今の自分にどのようなことができるかを考えた。</p>